

第3次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの各取組の進捗について

1. 全体の概要について

●全34の具体的取組に係る成果指標について、進捗状況をA B Cで評価

(令和6年9月末時点)

- ・ A : 令和6年度目標値を達成見込み
- ・ B : 令和6年度目標値については未達成の見込みではあるものの、一定の進捗あり
- ・ C : 令和6年度目標値については未達成の見込みであり、進捗に遅れ等が見られる

●成果指標の件数 : 59件

- ・ A : 42件 (約71%)
- ・ B : 10件 (約17%)
- ・ C : 2件 (約3%)
- ・ 実績値なし : 5件 (約9%)

2. 進捗状況「C」評価について (全2件)

(1) 「廃止代替路線バスの維持」 (20ページ)

- ・ 成果指標「伊勢玉城線の利用者数」

<現況及び今後の方向性>

新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が減少し、回復には至っていない状況である。一方で、交通弱者の通院・買い物や通勤・通学に利用されていることから、市町間で連携のうえ、利用促進を図り、路線の維持・確保に向けて取組を継続していく。

(2) 「出会い・結婚に関する情報提供等」 (29ページ)

- ・ 成果指標「婚活イベント情報提供件数」

<現況及び今後の方向性>

令和6年度上半期において伊勢志摩圏域やその周辺でのイベントが少なかったことから、目標値には達しない見込みである。出会い・結婚への支援に向けて、今後もニーズを把握しながら、情報発信等に努めていく。

各取組の進捗状況（令和6年9月末現在）

◆生活機能の強化に係る政策分野

医療・福祉	医療体制の確保	休日・夜間応急診療所の維持運営	3
		病院群輪番制の維持	4
		医療受診適正化の啓発	5
		在宅医療・介護連携の推進	6
	子育て環境の充実	病児・病後児の保育施設の運営	7
		ファミリーサポートセンター提供会員の相互利用	8
		児童発達支援センターの設置、運営	9
産業振興	商工業の振興	伊勢志摩総合地方卸売市場の経営基盤の確立	10
		中小企業勤労者及び事業主への福利厚生事業の充実に向けた支援	11
		企業立地の推進	12
		イベント等の誘致・開催	13
		創業に関する支援	14
	農林漁業の振興	鳥獣被害防止対策	15
	観光の振興	伊勢志摩地域への旅客誘致	16
		伊勢熊野地域への旅客誘致	17
		伊勢志摩国立公園の自然保護、PR、地域振興	18
その他	自転車の活用推進	自転車を活用したまちづくり	19

◆結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

公共交通	交通ネットワークの充実	廃止代替路線バスの維持	20
		コミュニティバス運行の連携	21
	道路網の整備促進	県道鳥羽松阪線の建設促進	22
		県道伊勢南島線の建設促進	23
		宮川架橋の建設促進	24
		伊勢志摩連絡道路の建設促進	25
	観光交通の渋滞緩和	伊勢地域周辺における交通渋滞の緩和	26
地域の生産者、消費者等の連携による地産地消	地産地消の推進及び地場製品のPR推進	地産地消の推進及び地場製品のPR	27
地域内外の住民との交流	地域情報の共有化及び発信	圏域内外への地域情報等の情報発信	28
	出会い・結婚への支援	出会い・結婚に関する情報提供等	29
その他	図書館サービスの充実	図書館サービスの更なる充実に向けた仕組みの構築	30
	宮川流域の保全・活用	宮川流域の環境保全・情報発信	31
	消費生活相談体制の強化	消費生活センターの広域化	32
	インクルーシブスポーツ環境の充実	インクルーシブスポーツの普及啓発	33

◆圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

人材育成	圏域市町職員・教職員の人材育成	職員研修の合同開催	34
		教職員研修講座の実施	35
	圏域内人材の育成	青少年健全育成の合同研修会の開催	36

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】医療体制の確保

取 組 事 項		休日・夜間応急診療所の維持運営							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○			○
協定の 内容	取組内容	救急医療体制を確保するため、休日夜間の一次救急医療体制（休日・夜間 応急診療所）を維持運営する。							
	中心市の役割	伊勢市休日・夜間応急診療所を維持運営する。							
	連携市町の役割	伊勢市休日・夜間応急診療所（鳥羽市及び志摩市は歯科診療に限る。）の 運営に必要な経費を負担する。							
現状と課題		圏域の休日・夜間における一次救急医療は、伊勢市、鳥羽市及び志摩市の 休日・夜間応急診療所にて行っている。内科、小児科とともに歯科を開設 しているのは伊勢市休日・夜間応急診療所だけである。							
事業の概要		伊勢地区医師会、伊勢地区歯科医師会及び伊勢薬剤師会に委託し、休日・ 夜間の一次救急医療体制(伊勢市休日・夜間応急診療所)を維持運営する。							
期待される効果		休日・夜間の一次救急医療体制を確保することで、住民の休日・夜間にお ける診療の不安を軽減するとともに健康管理に繋がる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		129,830	129,830	129,830	129,830	129,830			
実績費（千円）									
実施ス ケジ ュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	伊勢市休日・夜間応急診療所の 運営								
取組の 実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	開所日数（日）	目標値		365	365	365	366	365	A：目標値達成の 見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	366	183					
	利用者数（人）	目標値		9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	B：目標値未達成 の見込みだが、一 定の進捗あり
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	8,875	3,443					
	現況及び今後の方向性	時点	R5年度	R6年9月末					
		利用者数については、昨年度の同時期と比べ減少しているものの、例年冬に流行するインフルエンザ等の患者が年末年始にかけて増加することから、昨年度と同程度の利用者を見込んでいる。引き続き不足している小児科医師の確保に努めるとともに、関係機関と調整を図り、安定した診療体制を維持する。また、新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策を行い、感染症の流行下においても一次救急としての医療提供を継続する。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】医療体制の確保

取 組 事 項		病院群輪番制の維持							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○	○	○	
協定の 内容	取組内容	救急医療体制を確保するため、休日夜間の二次救急医療体制（病院群輪番制）を維持する。							
	中心市の役割	病院群輪番制の運営に必要な経費を負担する。							
	連携市町の役割	病院群輪番制の運営に必要な経費を負担する。							
現状と課題		地域の休日・夜間における二次救急医療は、伊勢赤十字病院と市立伊勢総合病院の2総合病院で行っている。							
事業の概要		地域内の総合病院の輪番制による二次救急医療体制の維持に必要な支援を行う。							
期待される効果		二次救急医療体制を維持確保し、住民が24時間いつでも診療が受けられる体制の確保に繋がる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		34,750	34,750	34,750	34,750	34,750	34,750		
実績費（千円）									
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	病院群輪番制病院への支援								
取組の 実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	開所日数（日） 【算出方法】輪番制により開所した日数	目標値		365	365	365	366	365	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	366	183					
		時点	R5年度	R6年9月末					
	受入人数（人） 【算出方法】輪番制による年間受入人数（各病院の合計）	目標値		18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	20,380	10,210					
		時点	R5年度	R6年9月末					
現況及び今後の方向性		地域内2か所の総合病院が輪番制で休日及び夜間における重病救急患者の受入れに対応する二次救急医療体制を維持するため、引き続き運営費の一部を助成し支援する。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】医療体制の確保

取 組 事 項		医療受診適正化の啓発							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○	○	○	
協定の 内容	取組内容	救急医療体制を確保するため、適正な医療受診に係る啓発を行う。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、住民等への啓発等を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、住民等への啓発等を行う。							
現状と課題		圏域においては、地域の医療機関が連携し、医療機能に応じた医療機関の役割分担が進められている。しかし、軽症患者が二次救急を不適切に受診する例などにより、本来の医療機能を十分発揮できない場合が生じている。							
事業の概要		住民を対象として、救急時等における病状に応じた医療機関の適切な受診、「かかりつけ医」を持つこと等の啓発を、地域の実状を考慮して広報誌、CATV、救急・災害を考える集いなどで行う。							
期待される効果		「かかりつけ医」を持つことにより、平時の健康管理とともに、救急時においても適切な対応ができる体制整備が進められる。かかりつけ医と最寄の医療機関及び救急病院の役割分担についての理解も住民に広がり、適切な受診が促される。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		1,800	1,800	1,800	1,800	1,800			
実績費（千円）									
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	広報紙、CATV、イベント等による住民への啓発								
取組の 実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	啓発活動回数（回） 【算出方法】啓発に向けてのイベント等の開催回数	目標値		2	2	2	2	2	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	2	1					
		時点	R5年度	R6年9月末					
	参加人数（人） 【算出方法】イベントへの参加者数	目標値		700	700	700	700	700	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	950	750					
		時点	R5年度	R6年9月末					
現況及び今後の方向性		新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた啓発イベントを昨年度から再開させた。引き続き圏域の救急医療を守るため、啓発手段を工夫しながら、引き続き連携市町と協力して啓発を行う。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】医療体制の確保

取 組 事 項		在宅医療・介護連携の推進								
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
		○			○	○		○		
協定の 内容	取組内容	高齢者の在宅生活の支援に必要な体制を整備するため、在宅医療と介護の連携を支援する取組を行う。								
	中心市の役割	連携市町と連携し、在宅医療と介護の連携推進のために必要な取組を行う。								
	連携市町の役割	中心市と連携し、事業を実施するとともに、必要な経費を負担する。								
現状と課題		在宅医療・介護連携については、その保険制度が異なることなどにより、多職種間の相互の理解や情報の共有が十分にできていないことなど、必ずしも円滑に連携がなされていない。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するために必要な支援を行うことが求められる。								
事業の概要		地域の在宅医療・介護連携を支援する拠点として、在宅医療・介護連携支援センターを設置し、地域の医療・介護資源を把握するとともに、相談窓口の設置や情報共有支援等を行う。								
期待される効果		在宅医療・介護に関わる専門職の連携が円滑に行われることにより、高齢者の在宅生活支援に必要な体制が整備され、地域包括ケアシステムの強化となる。								
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度				
		17,340	17,340	17,340	17,340	17,340			17,340	
実績費（千円）										
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度				
	事業の実施									
取組 の実 績	成果指標（単位）			R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	在宅医療・介護連携支援相談窓口設置（箇所） 【算出方法】在宅医療・介護連携支援センター設置数	目標値		1	1	1	1	1	A：目標値達成の見込み	
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		実績値	1	1						
		時点	R5年度	R6年9月末						
	連携推進会議の開催回数（回） 【算出方法】在宅医療・介護等の多職種、市町による連携推進会議の開催回数	目標値		2	2	2	2	2	A：目標値達成の見込み	
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		実績値	2	1						
		時点	R5年度	R6年9月末						
	在宅医療・介護等多職種研修回数（回） 【算出方法】在宅医療・介護等の多職種による研修の開催回数	目標値		7	7	7	7	7	A：目標値達成の見込み	
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		実績値	7	3						
		時点	R5年度	R6年9月末	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
現況及び今後の方向性		伊勢地区の医療関係機関や介護事業所が速やかに情報を共有できるクラウドシステムの活用により、在宅医療と介護の連携を促進し、地域包括ケアシステムの強化をすすめた。 今後も連携が円滑に行えるよう、システム利用者の増大に向けた取り組みを推進していく。								
備 考		在宅医療・介護連携支援センター・・・伊勢市、玉城町、度会町、南伊勢町が伊勢地区医師会への業務委託により共同設置。								

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】子育て環境の充実

取 組 事 項		病児・病後児の保育施設の運営							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○			○	○	○	○	○
協定の 内容	取組内容	安心して子育てができる環境を提供するため、病児・病後児を保育する専用施設を運営する。							
	中心市の役割	事業の実施に必要な事務を行うとともに、連携市町と連携し、住民等への周知及び運営に必要な経費を負担する							
	連携市町の役割	中心市と連携し、住民等への周知及び運営に必要な経費を負担する。							
現状と課題		核家族化や共働き家庭の増加により、病気あるいは病気回復期で集団保育の困難である児童（小学6年生まで）の保育施設の需要が高まっている。							
事業の概要		圏域内の住民の仕事と子育ての両立を支援するため、専用施設を有する小児医療機関に運営を委託し、病児・病後児の保育環境を確保する。また、住民への周知を行う。							
期待される効果		安心して子育てができる環境を提供することができる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		16,400	16,400	16,400	16,400	16,400			
実績費（千円）									
実施 スケ ジュ ール	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	病児・病後児の保育施設の運営								
	周知活動								
取組の 実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	利用可能者数（人） 【算出方法】年間開所日数（240日）×1日に受け入れ可能な人数（4人）	目標値		960	960	960	960	960	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	892	480					
		時点	R5年度	R6年9月末					
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
現況及び今後の方向性		実施施設の移転（R6.10）を機に、改めて連携市町内の住民へホームページ等を通じて取組の周知を行った。 圏域内の住民の仕事と子育ての両立を支援するため、引き続き病児・病後児を専用施設で保育する事業を共同で実施して、広域利用の推進を図る。コロナ禍や少子化の影響により利用者数はコロナ禍前より減少しているが、事業の実施に影響がないよう、事業者への経費負担等への対応を検討していく。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】子育て環境の充実

取 組 事 項		ファミリーサポートセンター提供会員の相互利用							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○			○	○	○	○	
協定の内容	取組内容	安心して子育てができる環境を提供するため、ファミリーサポートセンターにおける提供会員の相互利用を推進する。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、提供会員の情報を共有し、依頼会員へ提供する。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、提供会員の情報を共有し、依頼会員へ提供する。							
現状と課題		伊勢市は単独（委託先：NP0法人三重みなみ子どもネットワーク）で、玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町（及び大台町）は広域連携（委託先：NP0法人三重県子どもNP0サポートセンター、運営者：NP0法人三重みなみ子どもネットワーク）で事業を実施している。利用にあたっての利便性向上に向けた提供会員の確保が課題となっている。							
事業の概要		子育ての手助けができる人（提供会員）を手助けが必要な人（依頼会員）の依頼に応じて紹介する事業について、各市町で実施する事業の充実に努めつつ、依頼会員の利便性向上を図るために、提供会員の相互利用の推進を図る。また、提供会員の援助内容についてHP・SNS等で紹介するなど周知を行うとともに、提供会員養成講座の開催により会員確保を図る。							
期待される効果		依頼会員への安定的なサービス提供と利便性向上を図ることができる。また、圏域において就労する人に、安心して子育てができる環境を提供することができる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		14,500	14,500	14,500	14,500	14,500			
実績費（千円）									
実施スケジュール	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	提供会員の情報共有								
	提供会員数の維持								
取組の実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	提供会員数（人）	目標値		160	160	160	160	160	B：目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり
		時点	R5年度末	R6年度末	R7年度末	R8年度末	R9年度末	R10年度末	
		実績値	144	133					
	利用者数（人）	目標値		1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度末	R6年度末	R7年度末	R8年度末	R9年度末	R10年度末	
		実績値	1,162	707					
		時点	R5年度末	R6年9月末					
現況及び今後の方向性		乳幼児健診や小学校入学説明会等でのチラシ配布、自治体ホームページへの掲載等の事業周知により、利用者数の増加につながっている。一方で定年延長等の影響により提供会員の増加には至っていない。今後は、各市町の広報やSNSを活用して事業を広く周知し、利用者数の増加及び提供会員の確保につなげる。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】子育て環境の充実

取 組 事 項		児童発達支援センターの設置、運営							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○	○	○	
協定の 内容	取組内容	発達障がい児に対する重層的な地域支援体制を構築するため、児童発達支援センターを設置、運営する。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、発達障がいを中心とした支援に必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、設置、運営に必要な経費を負担する。							
現状と課題		令和6年4月施行の改正児童福祉法では、「児童発達支援センター」を地域の障がい児とその家族を支援する機関として、また、障害児通所支援事業所に対する中核的な支援機関として、機能の強化を図ることとされている。							
事業の概要		連携市町における中核的な支援機関として、伊勢市児童発達支援センターにおいて、専門的な知識に基づく技術的な助言・援助を障害児通所支援事業者等へ行う。また、通所事業や保育所等訪問支援事業、地域支援事業、相談支援事業を実施する。							
期待される効果		児童発達支援センターがその機能を発揮することにより、地域における障がい児支援の質の向上に繋がる。							
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		46,000	46,000	46,000	46,000	46,000			
実績費（千円）									
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
	通所事業、保育所等訪問支援事業の実施								
	地域支援事業の実施								
	相談支援事業の実施								
取組 の実 績	成果指標（単位）		R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況
	通所事業、保育所等訪問支援事業の延べ利用者数（人）	目標値		4,680	4,680	4,680	4,680	4,680	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	5,161	2,421					
		時点	R5年度	R6年9月末					
	事業者研修会の実施回数（回）	目標値		3	3	3	4	4	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	2	1					
		時点	R5年度	R6年9月末					
	家族支援事業の実施回数（回）	目標値		4	4	4	5	5	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	3	2					
		時点	R5年度	R6年9月末					
現況及び今後の方向性		地域の障がい児とその家族を支援する機関として、また、障がい児支援通所支援事業所に対する中核的な支援機関として、機能の強化を図る。家族支援として、ペアレント・トレーニングや保護者学習会の実施、事業者等の支援者を対象に研修会等を開催する。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】 生活機能の強化

【政策分野】 産業振興

【施策名】 商工業の振興

取 組 事 項		伊勢志摩総合地方卸売市場の経営基盤の確立							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○		○	
協定の内容	取組内容	圏域消費者への生鮮食料品の安定供給及び生産者の安定的な販路の確保を図るため、伊勢志摩総合地方卸売市場の安定した経営基盤の確立を推進する。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、伊勢志摩総合地方卸売市場の運営に関する調整及び支援を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、伊勢志摩総合地方卸売市場の運営に関する協議及び支援を行う。							
現状と課題		伊勢志摩総合地方卸売市場については、自立経営への転換を図り、民間主導の経営化を進めていくことが求められている。また、昭和57年に建設された施設については、老朽化が進んでいることから、修繕及び設備更新を計画的に実施する必要がある。							
事業の概要		持続可能な経営が可能となるよう、経営改善に取り組む。							
期待される効果		生産者には確実な販路を、流通・小売業者には生鮮食料品の安定的・効率的な取引の場を提供できる。消費者には「安心・安全」な生鮮食料品の安定した供給を行うことができる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		0	0	0	0	0			
実績費（千円）									
実施スケジュール	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	経営改善								
取組の実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	繰越利益剰余金(千円) 【算出方法】卸売市場における繰越利益剰余金	目標値		96,500	101,500	106,500	111,500	116,500	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	94,434	107,807					
		時点	R5年度	R6年9月末					
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
現況及び今後の方向性		伊勢志摩地域の拠点市場として、地域住民への生鮮食料品の安定供給と、地域生産者の安定的な販路維持を図るためにも、当卸売市場の経営の安定化は必要不可欠である。平成27年度には開業以来初めて累積黒字を計上し、以降順調に増加させていることから、今後も関係市町が連携して運営に関し調整、支援していく。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】商工業の振興

取 組 事 項		中小企業勤労者及び事業主への福利厚生事業の充実にに向けた支援							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○		○				
協定の内容	取組内容	中小企業の振興を図るため、圏域の中小企業の勤労者及び事業主における勤労者福祉制度の充実に取り組む。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターの運営に関する協議及び支援を行うとともに、事業所等へ情報発信を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターの運営に関する協議及び支援を行うとともに、事業所等へ情報発信を行う。							
現状と課題		当地域に所在する企業の大半は中小企業であるが、中小企業は独自に福利厚生事業を実施することが難しいことが多い。労働力人口が減少する中、人材確保、雇用定着を図る上でも福利厚生事業の充実が求められている。福利厚生事業を提供する一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターの会員数は、令和元年度から減少しており、安定的な運営を行うため会員の維持確保が課題となっている。							
事業の概要		中小企業等の勤労者及び事業主の福利厚生事業を行う一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターに対し、事業運営に必要な補助金を交付する。また、充実したサービスを提供するため、会員の維持確保に向けて同センターの周知を行う。							
期待される効果		地域企業の人材確保及び勤労者の定着に繋がる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		13,284	13,284	13,284	13,284	13,284			
実績費（千円）									
実施スケジュール	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	サービスセンターの運営支援								
	広報活動								
取組の実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	会員事業所数（社）	目標値		827	834	841	848	855	B：目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり
		時点	R6.4.1	R7.4.1	R8.4.1	R9.4.1	R10.4.1	R11.4.1	
		実績値	821	818					
	【算出方法】一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターにおける会員事業所数	時点	R6.4.1	R6.10.1					
	会員数（人）	目標値		5,100	5,150	5,200	5,250	5,300	A：目標値達成の見込み
		時点	R6.4.1	R7.4.1	R8.4.1	R9.4.1	R10.4.1	R11.4.1	
		実績値	5,213	5,298					
	【算出方法】一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターにおける会員数	時点	R6.4.1	R6.10.1					
現況及び今後の方向性		個人（一人）事業所の入退会により会員事業所数は減少する一方で、新規入会した事業所は比較的従業員が多い事業所が複数あったことから、会員数は増加した。 サービスセンターにおいては、従業員数が多い事業所を中心に加入促進の取り組みを精力的に行っている。また、建設業等の会員企業の集まる協議会や総会の場で事業の周知説明を積極的に行うことで、その成果が出ている。 引き続き、関係団体とも連携し、未加入事業所への働きかけを進めていく。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】商工業の振興

取組事項		企業立地の推進							
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○		○	
協定の内容	取組内容	圏域の経済活性化及び雇用の拡大を確保するため、企業立地を推進する。							
	中心市の役割	三重県と連携を図るとともに、連携市町と連携し、産業集積の形成及び地域経済の活性化を図るために必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、産業集積の形成及び地域経済の活性化を図るために必要な取組を行う。							
現状と課題		三重県内では、道路交通網・リニア新幹線の整備状況から北勢方面への企業立地が盛んである。 伊勢志摩地域には大規模な工業団地がなく、個別にPRしても効果が薄い。 伊勢志摩地域が共同で企業誘致活動をし、操業環境を周知していくことが課題である。							
事業の概要		伊勢志摩地域へ企業を誘致するため、三重県が主催する企業セミナーで圏域の操業環境等のPRに取り組む。 また、工場等の新設及び増設等の設備投資による事業拡張を推進する。							
期待される効果		広域で連携して企業立地を促進することにより、圏域の経済活性化及び雇用の確保に繋がることが期待される。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		356	356	356	356	356			
実績費（千円）									
実施スケジュール	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	三重県主催企業セミナーでのPR								
	工場等の設備投資支援								
取組の実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	雇用が発生する設備投資件数（件）	目標値		20	20	20	20	20	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	16	15					
		時点	R5年度	R6年9月末					
	雇用創出人数（人）	目標値		80	80	80	80	80	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	63	44					
		時点	R5年度	R6年9月末					
	【算出方法】半島振興法の確認申請を行った事業者のうち雇用が発生する設備導入を行った事業者の数								
現況及び今後の方向性		成果指標の雇用が発生する設備投資件数及び雇用創出人数のいずれも目標値達成の見込みである。引き続き、三重県及び圏域市町で連携し、伊勢志摩地域の操業環境等をPRする。また、各市町は、優遇制度活用等の取組により、企業誘致を推進するとともに、圏域内企業の設備投資による雇用の創出及び圏域外への流出防止に努める。							
備考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】商工業の振興

取 組 事 項		イベント等の誘致・開催							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○	○	○	○
協定の内容	取組内容	圏域内の多産業への経済波及と交流人口の拡大を図るため、連携市町、県、民間団体等が集客力・発信力の高いイベント等を誘致・開催する。							
	中心市の役割	各イベント等の誘致及び開催に取り組む組織等において、連携市町と連携し、必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	各イベント等の誘致及び開催に取り組む組織等において、中心市と連携し、必要な取組を行う。							
現状と課題		令和7年に開催が予定されている大阪・関西万博や神宮式年遷宮関連行事の開始に伴う民族伝統行事の開催等を誘客の契機と捉え、継続的に圏域の魅力を発信することが求められている。							
事業の概要		圏域内の多産業への経済波及と交流人口の拡大を図るため、連携市町、県、民間団体等が集客力・発信力の高いイベント等を誘致・開催する。							
期待される効果		圏域内の多産業への経済波及が期待されるとともに、伊勢志摩圏域の魅力が国内外に発信されることによる交流人口の拡大等に繋がる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度			
		1, 400	1, 400	1, 400	1, 400	1, 400			
実績費（千円）									
実施スケジュール	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度			
	イベントの誘致・開催								
取組の実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	進捗状況
	誘致活動数（働きかけた団体数）（件）	目標値		2	2	2	2	2	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	3	2					
	イベントの開催件数（件）	目標値		1	1	1	1	1	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	1	1					
		時点	R5年度	R6年9月末					
現況及び今後の方向性		誘致活動数とイベント開催件数は、目標値を達成しており継続して活動を行っていく。イベント等の誘致は圏域内の宿泊事業者をはじめ、多産業への経済波及が期待されるとともに、伊勢志摩圏域の魅力が国内外に発信されることによる交流人口の拡大等に繋がることから今後も継続して実施する。							
備 考		令和6年度開催 第35回日本パラ陸上競技選手権大会（6月8、9日） 第18回U18/第55回U16陸上競技大会（10月18～20日） 山田優杯 鳥羽・エペフェンシング大会（12月21、22日）							

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】商工業の振興

取 組 事 項		創業に関する支援							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○	○	○	○
協定の 内容	取組内容	産業の振興、雇用の創出を図るため、創業を支援する。							
	中心市の役割	連携市町及び関係機関等と連携し、創業に関する支援を行う。							
	連携市町の役割	中心市及び関係機関等と連携し、創業に関する支援を行う。							
現状と課題		これまで地域経済を支えてきた中小企業・小規模事業者の数が年々減少を続けており、地域の活力が失われつつある。また、進学や就職などの理由で地域を離れ愛知県等3大都市圏へ転出する若者が後を絶たず、人口減少に拍車をかけている。このような状況において、新たな地域経済の担い手を創出するため、創業の促進が求められている。							
事業の概要		産業の振興、雇用の創出を図るため、創業を支援する。							
期待される効果		圏域における創業を促進することで、新たな担い手による地域産業の振興及び雇用の創出に繋がる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		34,200	34,200	34,200	34,200	34,200			34,200
実績費（千円）									
実施ス ケ ジ ュ ー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	創業支援事業計画に定める創業セミナー等の開催						→		
	創業に関する情報の収集・発信、共有						→		
	創業希望者への補助の実施						→		
取組の 実 績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	創業セミナー等参加者数（人）	目標値		380	385	390	395	400	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	386	122					
	【算出方法】創業支援事業計画に定める創業セミナー等への参加者の年間延べ人数	時点	R5年度	R6年9月末					B：目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり
		目標値		40	42	44	46	48	
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	創業希望者への補助件数（件）	実績値	32	22					
		時点	R5年度	R6年9月末					
		【算出方法】創業希望者に対する補助金（利子補給及び保証料補給を除く）の交付件数							
現況及び今後の方向性		創業セミナー等については、受講機会の増加による利用者の利便性向上、創業希望者等の経営力等の強化に向けて、これまでの商工団体での実施に加え、令和6年度は伊勢市ビジネスサポートセンターでも実施している。 創業希望者への補助件数については、目標値を下回るものの、鳥羽市において今年度から新たに創業補助金を新設していることなどから、前年度実績を上回る見込みである。 今後も新たな地域経済の担い手の創出や若者等の移住・定住を促進するため、連携市町及び関係機関等と連携して創業セミナーや創業支援等を行うほか、圏域内での情報共有を行い、圏域における創業の促進に取り組んでいく。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】農林漁業の振興

取 組 事 項		鳥獣被害防止対策							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○	○	○	○
協定の 内容	取組内容	有害鳥獣による農作物等への被害を防止するため、鳥獣被害対策を推進する。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、鳥獣被害防止対策に必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、鳥獣被害防止対策に必要な取組を行う。							
現状と課題		鳥獣被害防止対策は各市町において積極的に取り組んでいるが、有害鳥獣の繁殖率は高く、農作物等への被害に苦慮している状況である。今後も各市町での取組を進めながらも、圏域で連携・協力しながら鳥獣被害防止対策を実施していくことが有効である。							
事業の概要		有害鳥獣による農林水産業被害を防止するため、目撃情報の共有など、市町が連携して対策を実施する。							
期待される効果		市町が連携して対策を実施することにより、効果的な被害防止を図ることができる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		101,000	101,000	101,000	101,000	101,000			
実績費（千円）									
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	連携市町間での情報共有								
	連携して行う事業の検討								
	連携して行う事業の実施								
取組の 実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	鳥獣被害額（千円） 【算出方法】連携市町での獣害被害額の合計	目標値		38,153	37,390	36,642	35,909	35,190	—
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	48,199	—					
		時点	R5年度	R6年9月末					
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
	現況及び今後の方向性		中心市及び連携市町において、市町の行政界が入り組んでいる地域で捕獲を連携して行っている。また、鳥獣被害対策に関する課題や取り組み等の情報交換を行っている。 今後の方向性としては引き続き、行政界をまたいで移動する有害獣の目撃情報を圏域市町で共有し、県も含めて圏域市町と効果的な獣害対策を実施していく。 また、先進地を参考にICTを活用した効果的な捕獲対策についても検討する。						
備 考		成果指標について、R6.9時点での集計未実施のため実績値なし							

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】観光の振興

取 組 事 項		伊勢志摩地域への旅客誘致							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○	○	○	○
協定の 内容	取組内容	伊勢志摩地域への旅客誘致を図り、伊勢志摩地域の情報発信、修学旅行の誘致等の取組を行う。							
	中心市の役割	公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構における連携事業を中心とし、連携市町と連携し、必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構における連携事業を中心とし、中心市と連携し、必要な取組を行う。							
現状と課題		伊勢志摩地域の観光客増加を目的に、地域が一体となって誘客宣伝事業を推進している。特に、令和15年予定の第63回神宮式年遷宮諸祭行事を視野に入れた取り組みを進める必要がある。							
事業の概要		伊勢志摩地域の情報発信、修学旅行等の誘致、第63回神宮式年遷宮を見据えた事業等を実施し、伊勢志摩地域への旅客誘致を図る。また、観光型MaaS事業の実施により伊勢志摩地域の観光DXを推進する。 インバウンド事業については、高付加価値化事業により滞在の長期化や消費促進などを図る。							
期待される効果		伊勢志摩地域の魅力創出・発信を行うことにより、伊勢志摩地域への観光客の増加に繋がる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度			
		71,188	81,400	81,400	81,400	81,400			
実績費（千円）									
実施 ス ケ ジ ュ ー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度			
	観光情報の発信								
	高付加価値化事業								
	伊勢志摩せんぐう旅博事業								
取組の 実 績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	進捗状況
	旅客数（万人）	目標値		2,538	2,591	2,772	2,966	3,032	—
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	【算出方法】三重県観光レクリエーション入込客数推計書 伊勢志摩地域（伊勢志摩地域入込客延数）	実績値	2,486	—					—
		時点	R5年度	R6年9月末					
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
	現況及び今後の方向性		伊勢志摩地域が一体となり、情報発信や修学旅行等の誘致、観光型MaaS事業の実施による伊勢志摩地域の観光DXの推進、インバウンドに対する高付加価値化事業等を行っている。第63回神宮式年遷宮を視野に入れた持続可能な観光地域づくりに取り組んでいく。						
備 考		・伊勢志摩観光コンベンション機構：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、明和町、多気町、松阪市、三重県他民間団体 「三重県観光レクリエーション入込客数推計書観光客実態調査報告書」の発表が年1回のため、実績値なし。 令和6年6月に伊勢志摩観光振興プランを策定したため、目標値等を変更。							

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】観光の振興

取 組 事 項		伊勢熊野地域への旅客誘致							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○		○		○		
協定の内容	取組内容	伊勢・熊野地域への旅客誘致を図り、お伊勢参りと熊野詣でに関する情報発信等の取組を行う。							
	中心市の役割	伊勢熊野観光連絡協議会の事務局運営を行うとともに、連携市町と連携し、必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	伊勢熊野観光連絡協議会の構成団体として中心市と連携し、必要な取組を行う。							
現状と課題		歴史的なつながりの深い伊勢熊野地域が協力して宣伝事業に取り組んでいる。外国人観光客への訴求も視野に入れつつ、伊勢熊野地域への来訪意欲向上に資する取り組みを協議会構成団体と連携しながら推進していく必要がある。							
事業の概要		国内だけでなく国外も視野に入れた、お伊勢参りと熊野詣でを目的とした旅客の誘致を行い、協議会構成団体間の相互の情報交換及び情報発信に取り組む。							
期待される効果		伊勢熊野地域の魅力創出・発信を行うことにより、伊勢熊野地域への観光客の増大に繋がる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		300	300	300	300	300			
実績費（千円）									
実施スケジュール	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	観光パンフレットの作成・増刷						→		
	ノベルティの作成						→		
	PRイベントの開催						→		
取組の実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	熊野古道来訪者数（人） 【算出方法】熊野古道伊勢路来訪者数推計値（一般社団法人東紀州地域振興公社）	目標値		390,000	410,000	440,000	-	-	—
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	304,695	—					
		時点	R5年度	R6年9月末					
		目標値							
		時点							
		実績値							
時点									
現況及び今後の方向性		協議会構成団体間の相互の情報交換を行うとともに、伊勢熊野広域パンフレットを活用したイベント出展などの情報発信に取り組んでいる。外国人観光客への訴求も視野に入れた情報発信にも意識を置き、伊勢熊野地域への来訪意欲向上に資する取り組みを協議会構成団体と連携しながら推進していく。							
備 考		協議会構成団体：伊勢市、鳥羽市、玉城町、多気町、大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町、新宮市、那智勝浦町、太地町、田辺市 「熊野古道来訪者数」について、東紀州地域振興公社データがないため、実績値なし。また、目標値について、R9、R10は未設定（三重県確認）。							

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】観光の振興

取 組 事 項		伊勢志摩国立公園の自然保護、PR、地域振興							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○				○	
協定の内容	取組内容	伊勢志摩国立公園の自然保全及び地域振興を図るため、情報発信、自然観察、清掃活動等の取組を行う。							
	中心市の役割	一般財団法人伊勢志摩国立公園協会、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会を活用するなどし、連携市町と連携し、必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	一般財団法人伊勢志摩国立公園協会、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会を活用するなどし、中心市と連携し、必要な取組を行う。							
現状と課題		令和3年3月に策定した「ステップアッププログラム2025」に基づき、環境整備を進めると同時に、国立公園指定80周年（令和8年）も見据え、連携市町及び民間事業者が連携し、国立公園地域へ観光客を惹きつける取組を行う必要がある。							
事業の概要		調査研究、保護維持、開発改善、紹介宣伝、目的を同じくする他団体との情報共有のほか、案内ガイド育成を含む自然ふれあい活動の促進、美化清掃、横山ビジターセンターの管理運営等に取り組む。また、国立公園満喫プロジェクトの開始に伴い、地域協議会で作成した「ステップアッププログラム」の達成に必要な活動に取り組む。							
期待される効果		外国人を含む伊勢志摩地域の自然を目的に訪れる観光客が増加することに繋がる。							
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		290,000	290,000	290,000	290,000	290,000			
実績費（千円）									
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
	伊勢志摩国立公園ステップアッププログラムに基づく取組								
	横山ビジターセンターの管理運営								
	清掃活動、自然観察会等の実施								
取組の実績	成果指標（単位）		R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況
	伊勢志摩国立公園の訪日外国人利用者数（人） 【算出方法】伊勢志摩国立公園の訪日外国人利用者数推計値 （国立公園訪日外国人利用者数推計値（環境省））	目標値		71,000	71,000	71,000	71,000	71,000	—
		時点	R5年	R6年	R7年	R8年	R9年	R10年	
		実績値	67,000	—					
		時点	R5年	R6年9月末					
	横山ビジターセンターの利用者数（人） 【算出方法】横山ビジターセンターの年間利用者数	目標値		48,000	48,000	49,000	49,000	50,000	B：目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	39,246	21,140					
		時点	R5年度	R6年9月末					
	自然観察会の参加者数（人） 【算出方法】伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会による自然観察会の年間参加者数	目標値		280	280	290	290	290	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	205	133					
		時点	R5年度	R6年9月末					
現況及び今後の方向性		横山展望台の来場者が増えている中、隣接するビジターセンターも利用してもらえるような取組や自然観察会への参加者数増加に向けた周知活動を行っていく。「ステップアッププログラム2025」（令和3年3月策定）に基づいて、伊勢志摩国立公園の自然保護やPR等を行うとともに、令和8年度に迎える伊勢志摩国立公園指定80周年に向けて、観光客を惹きつける取り組みを実施していく。							
備 考		「伊勢志摩国立公園の訪日外国人利用者数」について、9月末時点での実績値なし。							

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】その他

【施策名】自転車の活用推進

取 組 事 項		自転車を活用したまちづくり							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○	○	○	○
協定の 内容	取組内容	観光振興、健康の増進、安心・安全利用、環境への負荷の低減等の公共の利益増進に向けて、自転車を活用した取組を行う。							
	中心市の役割	自転車を活用したまちづくりに取り組む組織等において、連携市町と連携し、必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	自転車を活用したまちづくりに取り組む組織等において、中心市と連携し、必要な取組を行う。							
現状と課題		ナショナルサイクルルートに指定された太平洋岸自転車道や各市町の交通の結節点などにおいて、安全で快適な自転車の通行環境の確保が必要である。このことから、令和4年度に伊勢志摩地域における自転車等活用検討会を設立し、生活及び観光の交通手段として自転車活用に向けた取組の検討を進めている。							
事業の概要		伊勢志摩地域自転車等活用推進計画を策定し、広域による推進体制のもと、サイクルツーリズムの推進や自転車通行空間の確保、健康づくりの啓発、安全利用の促進など、地域一体で自転車を活用した取組を行う。							
期待される効果		自転車の活用により、観光振興、健康の増進、安心・安全利用、環境への負荷の低減等の公共の利益増進が期待できる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		17,400	16,400	16,400	16,400	18,400			
実績費（千円）									
施 ス ケ ジ ュ ー	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	自転車等活用推進計画に基づく取組								
取組の 実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	レンタサイクル等の貸出数（台） 【算出方法】連携市町の貸出数の合計	目標値		6,800	7,300	7,600	7,800	8,100	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	6,891	4,344					
		時点	R5年度	R6年9月末					
	市町主導のサイクルルート設定数（ルート） 【算出方法】連携市町のサイクルルート設定数の合計	目標値		4	5	7	9	10	B：目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	3	3					
		時点	R5年度	R6年9月末					
	自転車関連交通事故件数（件） 【算出方法】連携市町の自転車関連交通事故件数の合計	目標値		345	338	331	324	315	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年	R6年	R7年	R8年	R9年	R10年	
		実績値	395	248					
		時点	R5年	R6年9末					
現況及び今後の方向性		令和6年2月に策定・施行された「伊勢志摩地域自転車等活用推進計画」および「伊勢志摩地域自転車ネットワーク計画」に基づき、各分野で取組を進めている。 サイクルルートの設定数については、今年度の目標達成は見込みないが、ナショナルサイクルルートを起点として、今後も各市町と状況の共有をしてサイクルルートの設定を検討していく。 今後も、自転車利用環境、観光、健康、スポーツ、交通安全、環境等あらゆる分野で自転車が活用されるよう伊勢志摩地域一体で取り組む。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】交通ネットワークの充実

取 組 事 項		廃止代替路線バスの維持							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○			○				
協定の 内容	取組内容	圏域住民の交通手段を確保するため、廃止代替路線バスの維持を推進する。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、相互の地域関係住民の意見を調整し、推進に必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、相互の地域関係住民の意見調整に協力し、推進に必要な取組を行う。							
現状と課題		新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数が減少し、徐々に回復傾向ではあるが、コロナ禍前の状況には戻っていない。また、運行経費の増加や運転手不足などの課題がある。							
事業の概要		地域住民の交通手段を確保するため、利用促進を行いながら伊勢玉城線の運行を維持する。							
期待される効果		交通手段を有しない交通弱者(高齢者等)が、通学、通院、通勤等の交通手段の確保ができる。また、伊勢神宮等に訪れた観光客等を田丸城跡などの観光資源への誘客により、周辺地域の活性化と回遊性の向上が期待できる。							
事業費 (千円)		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		9,300	9,300	9,300	9,300	9,300			
実績費 (千円)									
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	伊勢玉城線の運行維持								
取組 の実績	成果指標 (単位)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	利用者数 (人) 【算出方法】伊勢玉城線の年間推計 輸送人員 (三交伊勢志摩交通 (株))	目標値		33,800	33,800	33,800	33,800	33,800	C:目標値未達成 の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	30,500	14,200					
		時点	R5年度	R6年9月末					
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
現況及び今後の方向性		コロナ禍後においても、利用者数はコロナ禍以前と同等には回復しておらず、横ばいからやや減少傾向になっている。交通弱者の通院・買い物や通勤・通学に利用されているため、路線の維持が必要であり、今後も関係市町と連携の上、利用促進を図りながら、路線の維持・確保を継続していく。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】交通ネットワークの充実

取 組 事 項		コミュニティバス運行の連携							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○			○	○			○
協定の 内容	取組内容	圏域住民の交通手段を確保するため、コミュニティバス等交通ネットワークの充実を推進する。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、相互の地域関係住民の意見を調整し、推進に必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、相互の地域関係住民の意見調整に協力し、推進に必要な取組を行う。							
現状と課題		新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数は減少したものの、コロナ禍後は利用者数が回復し、増加してきている。一方で、運行経費の増加や運転手不足等の要因もあり、地域公共交通の維持には、効果的、効率的な運行が必要となっている。 AI配車システムを活用したAIオンデマンド交通などについての調査・研究を行いながら、広域連携の可能性について協議を進めていく必要がある。							
事業の概要		圏域住民の移動手段を確保するため、利便性が高く、効率的なアクセス方法を検討・検証しながら、生活圏に合わせた複数市町の連携による運行を行う。							
期待される効果		圏域全体で多様な交通手段も含め、効率的・効果的なコミュニティバス運行のあり方を検討することで、圏域住民の生活交通の確保と利便性向上及び地域間の交通ネットワーク強化が期待できる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		63,900	63,900	63,900	63,900	63,900			
実績費（千円）									
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	コミュニティバスの連携についての協議								
	コミュニティバス相互利用の実施								
取組の 実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	利用者数（人） 【算出方法】年間利用者数	目標値		36,600	36,600	36,600	36,600	36,600	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	38,045	20,035					
		時点	R5年度	R6年9月末					
現況及び今後の方向性		生活圏に合わせた連携運行により、圏域住民の利便性向上が図れている。引き続き圏域住民の交通手段を確保するため、コミュニティバス等交通ネットワークの充実を推進していく。							
備 考		・福祉バスの運行（玉城町） 玉城町保健福祉会館～伊勢市小俣図書館の輸送 ・沼木バス（デマンド）の運行（伊勢市） 度会町のスーパーを経由、度会町との連携（川口～南伊勢高校度会校舎前） ・町営バスの運行（度会町） 町営バスと沼木バスの接続（グッディなど）と連携 ・おかげバスの運行（伊勢市） 「東大淀・明野・小俣線」の明和町（山大淀）までの運行区間延長 ・町民バスの運行（明和町） 町民バス（大淀ルート）とおかげバスの接続（大淀、山大淀）							

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】道路網の整備促進

取 組 事 項		県道鳥羽松阪線の建設促進							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○						
協定の 内容	取組内容	生活圏の拡大と利便性の向上などを図り、相互を結ぶ県道鳥羽松阪線伊勢鳥羽地区の道路整備事業を推進する。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、相互の地域関係住民の意見を調整し、推進に必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、相互の地域関係住民の意見調整に協力し、推進に必要な取組を行う。							
現状と課題		県道鳥羽松阪線の伊勢市から鳥羽市の区間は、道路幅も狭く交通量の増加により渋滞が発生していることから、事業の早期完成を目指して昭和53年度に県道鳥羽松阪線伊勢鳥羽地区改良促進連絡協議会を設置した。未完成区間は三重県伊勢建設事務所管内の430m（R23号楠部町交差点付近～五十鈴川左岸堤防付近）のみとなっている。							
事業の概要		伊勢市、鳥羽市及び地元関係住民相互間の連絡調整を図り、道路管理者である三重県に要望活動を行う。							
期待される効果		相互間の所要時間短縮及び交通安全対策を図ることができる。また、そのことにより、生活圏の拡大と利便性が向上する。							
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		20	20	20	20	20			
実績費（千円）									
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
	要望活動								
取組の 実績	成果指標（単位）		R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況
	要望活動（回） 【算出方法】要望活動実施回数	目標値		1	1	1	1	1	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	1	0					
		時点	R5年度	R6年9月末					
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
現況及び今後の方向性		今年度は、一部区間において工事が行われる予定となっている。引き続き、早期完成に向けて要望活動を行う。（令和6年は11月に要望実施）							
備 考		構成：伊勢市楠部町、伊勢市朝熊町、伊勢市中村町、伊勢市一字田町、伊勢市鹿海町、鳥羽市池上町、鳥羽市堅神町、鳥羽市屋内町、鳥羽市鳥羽事務局：伊勢市、鳥羽市							

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】道路網の整備促進

取 組 事 項		県道伊勢南島線の建設促進							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○				○		○	
協定の内容	取組内容	生活圏の拡大と利便性の向上などを図り、相互を結ぶ県道伊勢南島線の道路整備事業を推進する。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、相互の地域関係住民の意見を調整し、推進に必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、相互の地域関係住民の意見調整に協力し、推進に必要な取組を行う。							
現状と課題		県道伊勢南島線は地域の発展に極めて重要な役割があるが、道路幅が狭く、交通量の増加により交通事故や渋滞が発生していることから、事業の早期完成を目指して昭和62年度に伊勢南島線道路改良促進期成同盟会を設置した。新野見坂トンネル開通、津村バイパス供用開始により利便性は向上したが、度会町地内の局所的な浸水や雨量による通行規制に起因した交通網の分断、伊勢市中島2丁目地内から津村町地内までの区間の歩道未整備等の課題が残っている。							
事業の概要		同盟会の意見をとりまとめ、道路管理者である三重県との情報共有及び危険箇所等の勉強会を行う。							
期待される効果		相互間の所要時間短縮及び交通安全対策を図ることができる。また、そのことにより、生活圏の拡大と利便性が向上する。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		3	3	3	3	3			
実績費（千円）									
実施スケジュール	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	勉強会								
取組の実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	勉強会（回）	目標値		1	1	1	1	1	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	【算出方法】勉強会実施回数	実績値	1	0					
		時点	R5年度	R6年9月末					
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
現況及び今後の方向性		度会町地内の局所的な浸水や雨量による通行規制に起因した交通網の分断、伊勢市中島2丁目地内から津村町地内までの区間の歩道未整備等の課題が残っており、課題解決に向けて、引き続き三重県との情報共有や勉強会を行う。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】道路網の整備促進

取 組 事 項		宮川架橋の建設促進							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○			○	○			
協定の 内容	取組内容	生活圏の拡大と利便性の向上などを図り、相互を結ぶ宮川架橋の道路整備事業を推進する。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、相互の地域関係住民の意見を調整し、推進に必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、相互の地域関係住民の意見調整に協力し、推進に必要な取組を行う。							
現状と課題		宮川には橋梁の本数が少なく、南伊勢大橋と度会橋とは約7.2km離れており、その間に橋はない。このため、通勤時間帯には、度会橋で慢性的に渋滞が発生している。また、県道伊勢南島線は、度会町と伊勢市内で冠水し自然災害に対しても脆弱な道路ネットワークとなっている。伊勢度会地域の「命の道」を確保するため、南伊勢大橋と度会橋とのほぼ中間点に新たな橋を建設することを目的として、平成21年に宮川架橋建設推進協議会を設立した。							
事業の概要		宮川架橋の早期実現を図るため、必要な資料の収集や分析を行い、要望活動を行う。							
期待される効果		相互の連携・交流をより一層推進でき、地域住民の安全・安心な暮らしが守られる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		50	50	50	50	50			
実績費（千円）									
実施 ス ケ ジ ュ ー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	要望活動								
取組の 実 績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	要望活動（回） 【算出方法】要望活動実施回数	目標値		1	1	1	1	1	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	1	0					
		時点	R5年度	R6年9月末					
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
現況及び今後の方向性		宮川架橋早期事業化実現の見通しは立っていないが、引き続き地元選出国會議員等への要望活動を行っていく。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】道路網の整備促進

取 組 事 項		伊勢志摩連絡道路の建設促進							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○				○	
協定の 内容	取組内容	生活圏の拡大と利便性の向上などを図り、相互を結ぶ伊勢志摩連絡道路の道路整備事業を推進する。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、相互の地域関係住民の意見を調整し、推進に必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、相互の地域関係住民の意見調整に協力し、推進に必要な取組を行う。							
現状と課題		一般国道167号並びに県道伊勢磯部線（伊勢道路）は、交通量の増加により慢性的に渋滞が発生しており、特に観光シーズンには、円滑な通行に支障が出ている。その解消のためには新しい道路が必要であるとして、平成5年に伊勢志摩連絡道路建設促進同盟会を設立した。第二伊勢道路が平成25年9月に、鵜方磯部バイパスが平成29年12月に供用開始となり、磯部バイパスは、令和6年度供用開始を目指している。今後、磯部バイパス及び未整備区間の早期完成が望まれる。							
事業の概要		同盟会の意見をとりまとめ、国及び三重県に要望活動を行う。							
期待される効果		相互間の所要時間短縮及び交通安全対策が図られる。また、そのことにより、生活圏の拡大と利便性が向上する。							
事業費（千円）		R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度			
		150	150	150	150	150			
実績費（千円）									
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度			
	要望活動								
取組 の実 績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	要望活動（回） 【算出方法】 要望活動実施回数	目標値		1	1	1	1	1	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	2	3					
		時点	R5年度	R6年9月末					
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
現況及び今後の方向性		磯部バイパスは令和6年度末に供用開始の見通し。白木インターチェンジの円滑な通行確保及び、未整備区間（五知～白木）の新規事業化に向け、引き続き要望活動を行う。							
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】観光交通の渋滞緩和

取 組 事 項		伊勢地域周辺における交通渋滞の緩和							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○					
協定の 内容	取組内容	伊勢地域周辺における交通渋滞の緩和を図るため、交通渋滞に関する調査研究、駐車場対策及びパーク&バスライドの実施など、交通渋滞の緩和を推進する。							
	中心市の役割	連携市町及び関係団体と連携し、交通渋滞を緩和するために必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市及び関係団体と連携し、伊勢地域の交通情報を共有するとともに、観光客への情報提供等を行う。							
現状と課題		公共交通機関の利用促進や交通渋滞の発生が予想される場合における交通規制、パーク&バスライド実施などにより、内宮周辺及び外宮周辺の交通渋滞の緩和や発生抑止はされているが、依然として解消に至っていないことから、来訪者のみならず、地域住民の生活や周辺市町への交通にも支障を来している。							
事業の概要		伊勢地域周辺における交通渋滞の緩和を図るため、交通渋滞に関する調査研究、駐車場対策及びパーク&バスライドの実施、交通情報の共有など、交通渋滞の緩和を推進する。							
期待される効果		観光交通の渋滞を緩和することで、伊勢地域周辺の交通環境の確保と訪問する観光客の快適性が向上する。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		49, 200	49, 200	49, 200	49, 200	49, 200			
実績費（千円）									
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	交通渋滞対策の実施								
取組の 実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	御木本道路1 k m以上の渋滞発生日数（日） 【算出方法】御木本道路における1 k m以上の年間渋滞発生日数	目標値		12以下	12以下	12以下	12以下	12以下	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	7	0					
		時点	R5年度	R6年9月末					
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
現況及び今後の方向性		12月以降の繁忙期の渋滞状況によるが、9月末までに御木本道路における1 k m以上の渋滞は発生しておらず、予定どおり進捗している。引き続き交通渋滞対策に取り組んでいく。							
備 考		御木本道路（伊勢西 I C 方面から）の宇治浦田町交差点から1 k m以上の渋滞発生日数を計測する。							

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】地域の生産者、消費者等の連携による地産地消

【施策名】地産地消の推進及び地場産品のPR推進

取 組 事 項		地産地消の推進及び地場産品のPR							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○	○	○	○
協定の 内容	取組内容	農林水産物の消費拡大を図るため、地産地消及び農林水産物のPRを推進する。							
	中心市の役割	連携市町及び関係団体と連携し、地産地消及び農林水産物のPRを推進するために必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市及び関係団体と連携し、地産地消及び農林水産物のPRを推進するために必要な取組を行う。							
現状と課題		農林水産業の就業人口は高齢化等により減少傾向にある。圏域内では安心・安全な地元の食材供給を促進し、圏域外には積極的にPRすることで消費の拡大を図り、地域農林水産業を活性化させることが課題となっている。							
事業の概要		農林水産物の消費拡大を図るため、地産地消及び農林水産物のPRを推進する。							
期待される効果		圏域内農林水産物の消費拡大による就業者の経営安定、地域農林水産業の活性化を図る。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度			
		4,700	4,700	4,700	4,700	4,700			
実績費（千円）									
実施 スケ ジュ ール	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度			
	連携して行う事業の検討								
	漁獲物の移動販売、漁協交流イベント・勉強会								
	地産地消の学校給食								
取組の 実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	進捗状況
	地場産品PR活動の実施回数（回）	目標値		15	19	19	23	23	B：目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	【算出方法】連携市町間で共同で実施した地場産品のPR活動の実施回数（連携した市町の延べ数）	実績値	10	2					
		時点	R5年度	R6年9月末					
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
	現況及び今後の方向性		地産地消及び地場産品のPRについては、基本的には各市町でそれぞれ実施しているところであるが、今年度の共同での取り組みとしては、漁獲物の移動販売を除いては、10月以降に連携市町間での共同イベント等の取り組みを実施予定である。 なお、進捗状況については、目標値未達成の見込みであるが、例年開催されていたイベントが事業の見直しにより減少となったものであり、それ以外の取り組みについては実施予定であるため、一定の進捗があったものとした。 今後については市町単位でのPRはもちろん必要であるが、圏域内で連携して行う活動も効果が大いと考えており、今後は連携市町の地場産品を一括りとしたPRを検討する。 また、食育の観点からも学校給食に地場産品を取り入れ、地産地消に取り組んでいる。						
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】地域内外の住民との交流

【施策名】地域情報の共有化及び発信

取 組 事 項		圏域内外への地域情報等の情報発信							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○	○	○	○
協定の 内容	取組内容	圏域における地域情報を共有化し、圏域の内外へ相互自治体の情報発信媒体を活用し、情報発信を図る。							
	中心市の役割	伊勢市及び連携市町の地域における情報等を集約し、情報発信可能な事実の把握及び整理を行い、連携市町へ提供する。							
	連携市町の役割	情報発信媒体への掲載事項について中心市へ情報提供する。							
現状と課題		各市町の広報紙やCATVでの合同記事掲載などに取り組んでおり、更なる圏域情報の共有・情報発信を行って圏域の一体感を醸成していく必要がある。 また、人口減少は圏域全体の課題であることから、移住の促進を図るため、「伊勢志摩」の知名度を生かし、令和4年度から連携市町合同で移住セミナーへ参加しているところである。移住を検討される方の琴線に触れるような情報発信をするべく、継続して連携していく必要がある。							
事業の概要		各市町からの地域情報を共有し、各市町のホームページやCATVで相互に情報を発信するほか、広報紙やCATVで合同記事を企画・掲載し、圏域での一体感のある情報発信を行う。 また、連携市町合同での移住セミナー参加を継続するとともに、伊勢志摩の知名度を生かし連携して魅力ある情報を発信する。							
期待される効果		圏域住民の活発な交流の促進が図られるとともに、地域振興や観光振興、圏域住民の郷土愛や圏域の一体感の醸成に繋がる。伊勢志摩の知名度を生かしながら連携して圏域全体の魅力や住みやすさ等をPRすることで、圏域への移住・定住の促進に繋がる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		953	953	953	953	953			
実績費（千円）									
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	情報集約・情報発信								
	移住イベント等PRの連携								
取組 の実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	圏域内外への地域情報等の情報発信（回） 【算出方法】地域情報等の合同発信回数等	目標値		25	25	25	25	25	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	24	20					
	移住イベント等PRの連携回数（回） 【算出方法】三重県主催等の移住イベントへの合同参加回数	目標値		2	2	2	2	2	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	1	1					
		時点	R5年度	R6年9月末					
	現況及び今後の方向性		東京での移住イベントへの合同出展や、8市町合同で移住関連イベントを開催するなど、伊勢志摩エリアとして移住のPRを実施していく。 また、圏内各市町で開催されるイベント情報等を積極的に連携発信している。今後、広報紙での合同記事掲載や、各市町のCATVを活用した合同企画の動画発信についても、圏域市町で連携し企画していく。						
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】地域内外の住民との交流

【施策名】出会い・結婚への支援

取 組 事 項		出会い・結婚に関する情報提供等								
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
		○	○	○	○	○	○	○	○	
協定の 内容	取組内容	出会い・結婚の希望をかなえるため、情報提供、相談への対応、セミナー開催など、出会い・結婚に関する支援を行う。								
	中心市の役割	連携市町と連携し、出会い・結婚への支援に必要な取組を行う。								
	連携市町の役割	中心市と連携し、出会い・結婚への支援に必要な取組を行う。								
現状と課題		人口減少が進む中、少子化対策が求められている。少子化の要因の一つに晩婚化・非婚化が挙げられる。結婚していない理由として「出会いがない」「理想の相手に出会えていない」ことがアンケート調査等の結果として出ている。今後、地域の活性化のためには、結婚を望む人が結婚でき、安心して子育てができる社会づくりが必要である。								
事業の概要		「いせ出会い支援センター」を拠点として、結婚に向けた相談、出会いの機会の創出や情報提供を行う。また、従業員の出会い・結婚を支援する企業のネットワーク「いせむすび」についても登録企業に情報提供を行い、従業員の出会いの機会に繋げていく。								
期待される効果		圏域全体を対象とすることで出会いの機会を多く提供できるなど、より広範囲での出会いが期待できる。								
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度				
		23,000	23,000	23,000	23,000	23,000				
実績費（千円）										
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度				
	出会い・結婚に関する相談対応									
	出会いの機会の創出									
取組 の実 績	成果指標（単位）			R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	センターの利用件数（件） 【算出方法】センターへの来所、電話、メールによる利用件数	目標値			3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	A：目標値達成の見込み
		時点		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値		3,099	1,613					
		時点		R5年度	R6年9月末					
	出会いのイベント開催数（回） 【算出方法】センターが開催する出会いイベント数	目標値			3	3	3	3	3	A：目標値達成の見込み
		時点		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値		3	1					
		時点		R5年度	R6年9月末					
	婚活イベント情報提供件数（件） 【算出方法】従業員の出会い・結婚を支援する企業ネットワーク「いせむすび」に情報提供するイベント数	目標値			70	70	70	70	70	C：目標値未達成の見込み
		時点		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値		57	15					
		時点		R5年度	R6年9月末					
現況及び今後の方向性		いせ出会い支援センターにおける相談事業、出会いイベント開催については、予定通り実施できており、下半期においてあと2回のイベント開催を予定している。婚活イベント情報提供件数については、令和6年度上半期において伊勢志摩圏域やその周辺でのイベントが少なかったことから、目標値には達しない見込みである。継続して、県、他市町、民間事業者の取組の情報収集を行いながら、発信に努めていきたい。また、県とは連携しながら重複する取組内容や実施方法の整理を行いたい。								
備 考										

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】その他

【施策名】図書館サービスの充実

取 組 事 項		図書館サービスの更なる充実に向けた仕組みの構築							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○	○	○	○
協定の内容	取組内容	図書館サービスの充実を図るため、公共図書館が連携し、利用者の利便性向上に向けた新たなサービスの仕組みを構築する。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、新たなサービスの仕組みを検討及び構築する。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、新たなサービスの仕組みの構築に係る協議及び検討を行い、構築に向けて協力を行う。							
現状と課題		令和2年6月1日をもって圏域内のすべての公共図書館において、圏域内の住民であれば利用者登録ができる仕組みが構築されている。新型コロナウイルス感染症の影響や電子書籍の登場など社会情勢の変化により、利用者が図書館で本を借りる冊数が減少している。今後、利用者の利便性向上に向け、新たな仕組みづくりを検討していく必要がある。							
事業の概要		構築した仕組み（圏域内の住民であれば、利用者登録を行えば本を借りることができる）について、より一層の周知を図る。 また、一部の市町で導入が始まっている電子図書館について、圏域全体でサービスを展開できないか、検討を行う。							
期待される効果		公共図書館の連携により、圏域住民の利用環境が向上するとともに、運営の効率化が図られる。							
事業費（千円）		R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度			
		0	0	0	0	0			
実績費（千円）									
実施スケジュール	具体的な内容	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度			
	サービス内容の周知						→		
	新たな仕組みづくりの検討						→		
取組の実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	圏域住民への蔵書の貸出冊数（冊）	目標値		105,000	107,000	109,000	111,000	113,000	B：目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	【算出方法】連携市町の公共図書館における圏域住民（自市町を除く）への貸出冊数の合計	実績値	102,631	50,132					
		時点	R5年度	R6年9月末					
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
現況及び今後の方向性		定住自立圏内における蔵書の貸出冊数の約8割を伊勢・小俣図書館が占めているが、両図書館の図書館システムの更新に伴い、9月の約1/3の期間を休館したため、9月実績が大幅に低下している。しかし、9月以外の期間では、前年比約2%の増加が見られることから、10月以降の貸出冊数についても増加が見込まれる。今後も本サービスの一層の周知に努めたい。また、圏域内の一部の市町で既に導入済みである電子図書館について、圏域を超えた広域連携の可能性を検討していく。							
備 考		大紀町は公共図書館なし							

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】その他

【施策名】宮川流域の保全・活用

取 組 事 項		宮川流域の環境保全・情報発信							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○			○	○	○		○
協定の 内容	取組内容	宮川流域の環境保全及び魅力を伝えるための情報発信等を行う。							
	中心市の役割	流域市町である連携市町と連携し、宮川流域の保全・活用に必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	流域市町である中心市と連携し、宮川流域の保全・活用に必要な取組を行う。							
現状と課題		伊勢志摩定住自立圏内に流れる一級河川の宮川は、国土交通省が実施する「全国一級河川の水質現況」において、「水質が最も良好な河川」に選出されるほど全国有数の清流であり、流域は豊かな自然や歴史・伝統、特色ある文化に恵まれた地域である。このすばらしい宮川流域を住民、事業者、行政が協力して次世代に引き継いでいくことが求められている。							
事業の概要		県及び1市6町（圏域外含む）で組織される宮川流域ルネッサンス協議会に参画する市町において、宮川流域の環境保全及びその魅力を伝えるための情報発信等に連携して取り組む。							
期待される効果		住民の宮川流域への関心が高まり、環境問題への意識啓発や、魅力ある流域づくりに繋がることが期待される。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度			
		47,000	47,000	47,000	47,000	47,000			
実績費（千円）									
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度			
	宮川の保全・活用のための事業実施								
取組の 実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	進捗状況
	宮川流域の環境保全のための清掃活動実施回数（回） 【算出方法】連携市町における清掃活動実施回数の合計	目標値		2	2	2	2	2	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	2	2					
	宮川を活用したイベントへの来場者数（人） 【算出方法】連携市町におけるイベントへの来場者数の合計	目標値		42,000	42,000	42,000	42,000	42,000	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	42,030	41,600					
	宮川をフィールドとした校外学習実施回数（回） 【算出方法】連携市町における校外学習実施回数の合計	目標値		55	55	55	55	55	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	54	40					
現況及び今後の方向性		3年ぶりに国土交通省の「水質が最も良好な河川」（清流日本一）に選ばれた中で、宮川流域への関心を高めるため、各市町において清掃活動やイベント等を実施した。また、宮川流域の環境保全に向けて、流量回復に係る要望書を三重県に提出するとともに、三重県と意見交換を実施した。今後も流域市町で連携を図り、環境保全及び情報発信に努める。							
備 考		宮川流域ルネッサンス協議会：伊勢市、玉城町、度会町、大紀町、明和町、多気町、大台町、三重県							

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】その他

【施策名】消費生活相談体制の強化

取 組 事 項		消費生活センターの広域化							
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○		○	○	
協定の 内容	取組内容	消費生活センターを維持運営し、消費者トラブルの早期解決・未然防止を図る。							
	中心市の役割	伊勢市消費生活センターを運営し、消費者からの相談対応を行うとともに、連携市町と連携し、消費生活に係る啓発・情報発信を行う。							
	連携市町の役割	運営に必要な経費を負担するとともに、中心市と連携し、消費生活に係る啓発・情報発信を行う。							
現状と課題		消費者安全法では、各市町村に消費生活に係る相談対応のため、消費生活相談員の配置を求めているが、各市町が単独で体制を整備することは難しい状況であることから、令和4年4月1日から広域連携による消費生活相談体制を確保した。消費者から寄せられる相談内容は年々、高度化・複雑化しており、これに対応し消費者の安全・安心を確保するためには、相談員の専門性を高めるなど相談体制の強化が必要である。また、消費者被害の未然防止の観点から、連携市町在住の消費者に対し、効果的な消費者教育・啓発を連携して行っていく必要がある。							
事業の概要		伊勢市消費生活センターを広域の相談窓口として維持・運営し、連携市町に在住する消費者からの相談対応や、消費生活に係る啓発・情報発信を行い、消費者トラブルの早期解決・未然防止を図る。							
期待される効果		連携市町に在住する消費者の消費生活に関する知識や意識の向上、消費者トラブルの早期発見・解決、未然防止に繋がる。							
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
		12,140	12,140	12,140	12,140	12,140			
実績費（千円）									
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度			
	消費生活センターの維持・運営								
取組 の実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	消費生活にかかる相談対応件数（件） 【算出方法】消費生活センターにおける相談対応件数	目標値		1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	1,145	662					
	消費生活にかかる啓発回数（回） 【算出方法】連携市町における消費生活出前講座・イベント出展回数、広報紙・HP等での情報発信回数の合計	目標値		152	154	156	158	160	A：目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	176	81					
		時点	R5年度	R6年9月末					
	現況及び今後の方向性		連携市町の住民からの消費生活に関する相談を受け付け、トラブルの早期解決に向けた対応を行っている。複雑・高度化する相談に対応し消費者の安全・安心を確保するため、相談員の専門性を高めるなど相談体制の強化を図っている。今後も引き続き、連携市町が連携・協力して消費生活センターの維持・強化を図るとともに、消費者被害の未然防止の観点から、連携市町住民に対し広報紙やホームページによる情報発信やチラシの配布、出前講座の実施等により積極的な消費者教育・啓発を行う。						
備 考									

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化
 【政策分野】その他
 【施策名】インクルーシブスポーツ環境の充実

取 組 事 項		インクルーシブスポーツの普及啓発								
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
		○	○	○	○	○	○	○	○	
協定の内容	取組内容	共生社会の実現に向け、インクルーシブスポーツの推進を図る。								
	中心市の役割	連携市町と連携し、インクルーシブスポーツのイベント、講習会、研修会等を開催し、インクルーシブスポーツの普及啓発を図る。								
	連携市町の役割	中心市と連携し、インクルーシブスポーツの普及啓発を図る。								
現状と課題		伊勢市パラスポーツ協会などの関係団体と連携し、イベント等を開催するなど、インクルーシブスポーツの普及啓発に努めているが、圏域住民の認知度はまだ低い状況にあることから、関係団体との連携を強化し、様々な視点から、更なる普及啓発に取り組んでいく必要がある。								
事業の概要		インクルーシブスポーツの普及啓発を進めるため、イベント、講習会、研修会等を開催する。 なお、開催にあたっては、伊勢市パラスポーツ協会や伊勢市障害者団体連合会、大学等とも連携し実施する。								
期待される効果		市町が連携することで、圏域住民にインクルーシブスポーツの効果的な普及啓発を図ることができる。また、学生の参画により、次世代育成の効果が期待できる。								
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度				
		1, 500	1, 700	2, 000	2, 000	2, 000				
実績費（千円）										
実施スケジュール	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度				
	インクルーシブスポーツイベントの実施									
	インクルーシブスポーツ講演会・研修会等の実施									
取組の実績	成果指標（単位）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	進捗状況	
	インクルーシブスポーツイベントの連携実施回数（回） 【算出方法】圏域内で連携して実施されたインクルーシブスポーツイベントの回数	目標値		1	1	2	2	2	A：目標値達成の見込み	
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		実績値	0	0						
	インクルーシブスポーツ講演会・研修会等の連携実施回数（回） 【算出方法】圏域内で連携して実施されたインクルーシブスポーツ講演会・研修会等の回数	目標値		0	1	1	1	1	—	
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		実績値	0	0						
	現況及び今後の方向性		「いせスポーツフェスティバル2024」（令和6年10月開催）において、圏域内で連携したボッチャ交流大会を実施（圏域内 計46チーム参加）するとともに、皇學館大学生が運営するインクルーシブスポーツ体験についても、圏域内の住民が参加可能としている。 次年度以降も継続してインクルーシブスポーツイベントを開催するため、開催時期や運営方法等について、圏域内で協議を重ね、検討していく。また、次年度から新たに講演会等も開催するため、あわせて検討していく。							
		備 考	インクルーシブスポーツ・・・障がいの有無や年齢、性別、国籍等を問わず、誰もが同じ空間で楽しむことのできるスポーツのこと（例：ボッチャ等）							

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】圏域マネジメント能力の強化

【政策分野】人材育成

【施策名】圏域市町職員・教職員の人材育成

取 組 事 項		職員研修の合同開催								
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
		○	○	○	○	○	○	○	○	
協定の 内容	取組内容	圏域における職員の能力及び資質向上を図るため、合同で研修を実施する。								
	中心市の役割	圏域で実施することが効果的な職員向けの研修を企画、実施する。								
	連携市町の役割	中心市が実施する職員向けの研修に参加するとともに、研修の運営に協力する。								
現状と課題		圏域住民への行政サービスの向上のために、地域を牽引する人材の育成が必要である。各市町それぞれにおいて研修計画を策定し実施することが基本となるが、研修によっては各市町でそれぞれ実施するには対象人数など費用対効果の関係で実施できない研修もある。								
事業の概要		各市町単体では実施できない研修を、連携市町職員が参加可能な合同研修として実施することで、連携市町職員の研修機会の充実・研修事業の効率化を図る。								
期待される効果		職員の能力と資質の向上及び研修を合同で実施することによる効率化、市町間における職員の連携強化に繋がる。								
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度				
		384	384	384	384	384				
実績費（千円）										
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度				
	合同研修の実施									
取組の 実績	成果指標（単位）			R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	合同研修の開催回数（回） 【算出方法】連携市町の職員が参加可能な研修の開催回数	目標値		30	30	30	30	30	A：目標値達成の見込み	
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		実績値	27	20						
		時点	R5年度	R6年9月末						
	合同研修への参加者数（人） 【算出方法】連携市町からの参加職員数	目標値		35	35	35	35	35	A：目標値達成の見込み	
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		実績値	73	22						
		時点	R5年度	R6年9月末						
現況及び今後の方向性		各市町が参加しやすい時期、内容等を検討したうえで、今後も継続して合同研修を実施し、職員の能力と資質の向上及び市町間の連携強化に努めていく。								
備 考										

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】圏域マネジメント能力の強化

【政策分野】人材育成

【施策名】圏域市町職員・教職員の人材育成

取 組 事 項		教職員研修講座の実施								
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
		○	○	○	○	○	○	○		
協定の 内容	取組内容	圏域における教職員の能力及び資質向上を図るため、合同で研修を実施する。								
	中心市の役割	圏域で実施することが効果的な教職員向けの研修を企画、実施する。								
	連携市町の役割	中心市が実施する教職員向けの研修に参加するとともに、研修の運営に協力する。								
現状と課題		伊勢市教育研究所が開催する研修講座には、以前から連携市町の教職員も参加している。今後は、働き方改革（総勤務時間の縮減）の観点から、講座数を増やしていくことは難しいと考えられるため、実施方法を工夫しながら「今日的教育課題」をテーマに、ステージ別の質の高い魅力ある研修講座を開催する必要がある。								
事業の概要		教職員等を対象とした研修講座等を開催し、教職員の資質向上をもって連携市町の教育力向上を図る。								
期待される効果		教職員の資質向上を図るとともに、教職員間の連携強化が期待できる。市町が連携することで、研修講座の効率的・効果的な運営が期待できる。								
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度				
		858	858	858	858	858				
実績費（千円）										
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度				
	教職員向け研修講座の実施									
取組 の実績	成果指標（単位）			R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	受講者の満足度（％） 【算出方法】（「満足」＋「概ね満足」）／全回答者数（受講者アンケート）	目標値		100	100	100	100	100	B：目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり	
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		実績値	99.5	99.6						
		時点	R5年度	R6年9月末						
	連携市町からの受講者数の割合（％） 【算出方法】連携市町からの受講者数／全受講者数（連携市町からも参加可能な講座のみ）	目標値		16	17	18	19	20	B：目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり	
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		実績値	12	12						
		時点	R5年度	R6年9月末						
現況及び今後の方向性		連携市町の教職員が参加できる講座は、全て参集で開催し、どの講座も高い満足度となった。定員の都合で、参加対象を伊勢市内の教職員に限定した講座もあったが、サテライト会場を増設するなど、開催方法を工夫していきたい。また、働き方改革の観点から、講座数を増やしていくのは難しい面もあるため、目的に応じて実施方法を工夫しながら、「今日的教育課題」をテーマに、若手教員の実践的指導力の向上に向けた研修を充実させ、教職員のニーズに合った講座を構築していく。								
備 考										

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。

【区分】圏域マネジメント能力の強化

【政策分野】人材育成

【施策名】圏域内人材の育成

取 組 事 項		青少年健全育成の合同研修会の開催								
連 携 市 町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
		○	○	○	○	○	○	○		
協定の 内容	取組内容	圏域における青少年の健全育成に関わる方を対象とした、情報交換会及び研修会等を開催する。								
	中心市の役割	連携市町と連携し、青少年健全育成に関する情報を共有するとともに、情報交換会及び研修会等の開催情報等を提供する。								
	連携市町の役割	中心市と連携し、青少年健全育成に関する情報を共有する。								
現状と課題		次代を担う青少年の育成は、社会全体で一体的に取り組むべき課題であることから、圏域内で活動する青少年健全育成団体が集い、情報交換や研修会を通じて課題を共有する必要がある。								
事業の概要		三重県青少年育成市町民会議南勢志摩支部（明和町を除く定住自立圏市町）により、青少年の健全育成に関わる方を対象とした支部研修会を中心市及び連携市町の持ち回りで開催する。支部研修会の開催市町は、それぞれの特性に合わせた企画を行い、他の市町は連携して周知を行う。								
期待される効果		連携市町が連携して参加することで、青少年健全育成に関する情報を共有し、圏域全体の青少年に対する健全育成を図る。								
事業費（千円）		R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度				
		50	50	50	50	50				
実績費（千円）										
実施 スケ ジュー ル	具体的な内容	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度				
	合同研修会の実施									
取組の 実績	成果指標（単位）			R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	合同研修会の開催回数（回） 【算出方法】連携市町が持ち回りで毎年開催する合同研修会の回数	目標値		1	1	1	1	1	A：目標値達成の見込み	
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		実績値	1	0						
		時点	R5年度	R6年9月末						
		目標値								
		時点								
		実績値								
		時点								
現況及び今後の方向性		令和6年度は、ヤングケアラーを題材とした合同研修会を11月に実施する。今後も、今日的な課題等を把握するための研修会等を実施し、青少年健全育成の推進に努める。								
備 考										

※事業費欄は連携市町の予算額（見込）の合計を記載しています。